

佐久市議会議員 議会報告

高柳博行 通信

発行 高柳 ひろゆき 後援会事務所 佐久市塩名田 558-6
電話 0267-58-4367 携帯 090-4613-0021
メールアドレス shionada5586@ybb.ne.jp



● 後援会長ご挨拶

4月16日の佐久市議会議員選挙におきましては、皆様方の多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様のあたたかいご声援により、高柳君も市政のスタートラインに立たせていただく事ができました。

議員になり、早3ヶ月が過ぎ去りましたが、この間、新人議員研修、会派への所属、委員会への加入、6月定例会議と、目まぐるしく時間が過ぎました。

現在、議員の職責とは何か、自問自答の毎日とのことです。

地域の皆様のお声にしっかり耳を傾け、活発な活動を展開してくれるものと確信しております。

今後とも倍旧のご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

後援会長 佐藤 城勝

● 所属会派は新緑会へ

会派制をとっている佐久市議会に於いては、どの会派に所属するかが、議員活動の根幹にかかわる重大な事項です。冷静な判断の結果、私自身が目指す方向の考えと近い会派である新緑会へ所属させていただきました。

メンバーは、会派代表、吉岡 徹議員 幹事長、三石 義文議員 会計、井出 浩司議員

新人議員として、野沢の土屋啓子議員、瀬戸の塩川浩志議員そして私、高柳博行の計6名の会派です。

会派構成は、第一会派（新政ネット13名）第2会派（新緑会6名）共産党3名、公明党3名の4会派、その他無所属1名となります。

● 所属委員会、一部事務組合は下記に加入

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| 1 議会運営委員会、 委員 | 2 経済建設常任委員会、 委員 |
| 3 公共施設マネジメント特別委員会 委員 | 4 広報広聴特別委員会 副委員長 |
| 5 川西保健衛生施設組合議会議員 委員（一部事務組合） | |



佐久市議会 新緑会 2017/08/03 平成29年5月17日

● 第2回定例会議について

第2回定例会議は6月5日から29日までの25日間の会期で開催され、条例案6件、事件案6件、予算案7件で合計19件が簡易採決で可決されました。浅科地区に関連する議案は下記2件となります。

① 十二河原工業団地用地（佐久市御馬寄字十二川原1098番2 面積 2万7,271平方メートルを）

日精エー・エス・ビー株式会社に2億3,369万519円で売却しました。

事業内容はPETボトルなどのプラスチックボトル生産機の部品の企画、開発、製造および販売を手掛けます。

工事着工は本年12月（予定）生産開始は平成30年11月（予定）



（十二川原工業団地用地）

② 平成26年に浅間病院の嘱託医師が退職し、派遣医師の確保調整が難しい状況となっております浅科保健センターは、現在浅間病院の医師が火曜日（成形外科午前11:00まで）佐久病院の医師が月曜日・水曜日（内科午前12:00まで）担当で週3日間の診療となっております。

派遣医師の平均報酬の動向を考慮し診療報酬の見直しとして、795,000円の増額補正を要求、具体的には、佐久病院の医師に対する1回あたりの診療の単価を3万円から4万円に変更することが可決され、診療所の29年度運営予算は2千33万9千円となります。

●下記 3 点に付き一般質問を行いました

1 農業資源の活用による交流人口の創出を図るには！！

(高柳)

※グリーンツーリズムを通じ現状・課題・今後の展開についてお尋ねします

(佐藤経済部長)

現在、故郷ふれあい交流事業補助金や活動広報等による受け入れ団体の支援及び団体の受け入れを担うリーダーの育成また※『佐久グラインガルテン望月』等の施設を通じ都会住民との交流を推進していますが、受け入れ施設を増やし、体験メニューを充実させ、交流活動を図るには、事業補助金の周知徹底による幅広い新たなグループの掘り起こしや、受け入れ団体がビジネスとして持続可能な運営ができるよう、先進地を参考にして佐久に適したグリーンツーリズムのあり方を考える必要があります。



※(グリーンツーリズム)とは多額の費用をかけず交流人口の創出を図る唯一の手段で、学生や海外の人々が、田舎の農林漁村資源にふれあう(農業体験プラン例えば 田植え 芋ほり等)もので、佐久市のような地域には最も適している
※(佐久グラインカルテ望月)とは、農地の活性化と共に、地域の活性化を目指し野菜作りを楽しみながら農村での宿泊滞在を通じ、都会の人々に地域の良さを体験していただく目的で造成された施設です。



耳より情報

隣町の蓼科では、日帰り農村体験のシステムが構築され、多くの学生団体や海外からのお客様の受け入れを行っています。5月から7月にかけては、都会からの多くの中学生が、小グループに分かれ農業体験をしています。農業の皆様にとりましては収入アップの道が図れ、同時に子供たちとの触れ合いも得ることができ一石二鳥となっています。農村体験受け入れに興味のある方は、お気軽にお問合せください。

2 ふるさと納税額を増やすには！！

(高柳)

ふるさと納税の現状・課題・今年度の目標額についてお尋ねします。

(小林企画部長)

現在、佐久市のふるさと納税額は約3千638万円で、調達コストの経費約1千437万円と佐久市民が、他の地域に納税した事による住民税の控除額約3千275万円、結果受け入れ額と財源流出額の収支は△1074万円となっています。返礼品の数、事業者の数は年々増加しており、今年度はプルーンなどの特産品や料理研究家の山本麗子先生のお料理教室、市内ゴルフ場の利用券等、新たに30品目を設定し現在34施設の業者から101種類の返礼品を取り揃えています。平成28年の寄付金の用途は、地元農産物を活用した地産地消推進事業、学校給食応援団支援事業、児童館運営事業に活用させていただきました。今後合併特例債の終了に伴い自主財源の確保が極めて重要であり、また地場産業の活性化や、地域経済の波及効果も考慮すると返礼商品にも創意工し充実を図らなくてはならないと思います。本年の佐久市のふるさと納税額目標額は、8千万円以上といたします。

3 幹線道路の整備早期着工を！！

(高柳)

中佐都バイパスの未整備区間の進捗状況についてお尋ねします

(依田建設部長)

中佐都バイパスの未整備区間1.1キロメートルについては、佐久建設事務所では整備を進めているところです。平成28年度から用地取得を進め、現在約6割の地権者と契約が締結されており、引き続き用地取得の進捗を図りながら、本年度より一部工事に着手するとの事です。市としては引き続き要望すると共に事業が円滑に進むよう協力してまいります。

(高柳)

塩名田を含む川西地区におきましては、救急搬送時の命の道にもなります。また中佐都地区の皆さまにおかれましては、暮らしの道ですので、早期の着工をよろしくお願ひします。

こうりゅう
高柳(交流)会を発足いたします。是非ともご検討いただき、後援会に加入くださいますようお願い申し上げます。尚ご意見、ご要望ございましたらお気軽にご連絡ください。